八尾市総合計画審議会 第2回総合戦略部会
議事録

日 時：令和6年2月29日（木）18時30分～20時10分

場 所：八尾市役所本館 6階 研修室

出席者：和田部会長、和泉副部会長、松本委員、吉田委員（Web参加）、伊藤委員、上木委員、川野委員、久保委員、高島委員、野村委員、古河委員、坂口委員
事務局（関係課含む）

欠席者：黒木委員、鈴木委員、高須委員

1. 開会

事務局

ただいまより「八尾市総合計画審議会 第2回総合戦略部会」を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます、政策企画部次長兼政策推進課長の柏原でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は夜間の会議にもかかわらずご参加いただき、まことにありがとうございます。

また、第1回の会議において、第2回の開催予定を3月下旬頃としておりましたが、会場手配等の関係もあり、本日開催させていただくこととなりました。

予定の大幅な変更に伴い、委員の皆様におかれましても、日程のご対応をいただくなど、ご迷惑をお掛けし大変申し訳ございませんでした。審議会事務局としてお詫び申し上げます。

会議につきましては、対面とWebの併用で開催してまいります。

それでは、会議開始にあたりまして、まず資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいております資料が、

- ・資料1：日本の将来推計人口と本市の人口推移について
- ・資料2：デジタルを活用した「価値と人材のサイクルモデル」形成事業
- ・資料3：2025年大阪・関西万博を契機とした「観光コンテンツ整備」事業
- ・資料4：2025年大阪・関西万博に向けた取り組み
- ・資料5：第2期八尾市総合戦略の改訂に向けた令和6年度スケジュール（案）
- ・資料6：「八尾市総合計画審議会専門部会（評価部会）」の審議状況について

となっております。

また、本日、机上に配布させていただいております資料が、

- ・座席表

- ・議事 2. ②の追加資料となる「観光コンテンツ整備事業」A4一枚
- ・議事 2. ③の追加資料となる「八尾のローカル SDGs「80（やお）アクション」
と書かれたカラー刷りのパンフレット1部 となっております。

資料はすべてお揃いでしょうか。不足している資料があれば挙手くださいますよう、お願いいたします。

それでは、ここからは、進行を和田部会長にお願いしたいと思います。

和田部会長、よろしく申し上げます。

和田部会長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。議事 1. 日本の将来推計人口と本市の人口推移について、事務局、ご説明をお願いします。

(資料 1 説明)

和田部会長

事務局ありがとうございました。

ただいまのご説明は、日本の将来推計人口と本市の人口推移ということでしたが、この部会で議論する地方創生分野と人口は非常に関連性が高い部分があります。

それと、後程にもご説明ありますけども、総合計画を考えるうえでも、人口というものが自治体の経済成長に与える影響というのも大きいですし、そういった意味で今八尾市がどういった人口推移となっているのか、客観的な資料をもとに皆さんにご説明いただき、情報共有をしたということになります。

また、八尾市は、日本全体が人口の減少を避けて通れない中であっても、なんとか踏ん張っている自治体でもあります。

一方で、資料にもありました外国人住民数の推移というのは、今後増えていくと見込まれています。

八尾市はもともと外国人の方も多いまちです。

そういうことを皆さんに考慮いただきながら、八尾市全体のさらなる取り組みの推進というものを、人口とどのように生かしていくかという部分も皆さんに考えていただければということで、事務局からご説明がありました。

この資料や八尾市の人口につきまして、何かご意見とか疑問点など、事務局に聞いておきたいことがあれば、ここでご意見賜りたいと思いますがいかがでしょうか。

久保委員

八尾市は人口減少という点で踏ん張ってるっていうのはわかりますが、八尾市は人口減少

に対してどういった施策をとっているのですか。

事務局

この戦略部会につきましては、地方創生、総合戦略の推進という観点で、地方創生に資する取り組みに対して観光の魅力発信であるとか、経済の活性化の取り組みに対してご意見をいただいているところですが、特に近年の市政運営の柱としましては、子ども・子育て、安全・安心、健康福祉といった様々な分野において重点的に取り組みを進めています。

住んでみたい、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりを目指して、各種取り組みを行っております。

特に子育て施策については、2歳児の保育教育料の無償化、国の交付金を活用した小・中学校給食の無償化等、子育て世帯の経済的な負担を軽減する施策を行っているところです。

久保委員

一般論として、所得を上げないと結婚する人も増えないですし、子どもを持つことができないと思いますが、所得向上のための施策はありますか。

事務局

委員のおっしゃる通り、物価高騰の状況の中、そこに賃金が追いついていないという課題につきましては、国でも議論されているところかと思えます。

国の動向を見ながら、我々としましても、中小企業の多いまちですので、各企業での賃金の底上げを図れるような取り組みについて考えていかなければならないと考えています。

久保委員

我々としても協力していかないといけないことだと考えています。八尾市の産業を応援していくのも我々の仕事ですし、また販路拡大といった支援をしていくのも我々の仕事だと思っておりますので、そういったことを市と協力して取り組んでいきたいと考えています。

和田部会長

久保委員、貴重なご指摘ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

野村委員

外国人住民数が2023年で8,101人っていうことなんですけど、これは何月時点の数値でしょうか。

弊社で留学生のインターンシップを受け入れていますけど、今年はベトナムの方が減っていて、円安の影響が出てるのではないかと思います。

留学生が 2024 年以降もっと減るんじゃないかという危機感があるので、2023 年で 8,101 人という数値がいつの時点なのか気になりました。

事務局

外国住民数の推移に記載されている数値は、各年 3 月末時点となっております。

野村委員

2023 年の夏頃から、ベトナムからインターンシップに来る人がいつもよりも少ないと感じていて、円安の影響で国に帰らないといけないといったことも聞いたので、そういった影響が出てるのではないかと思います。

上木委員

私もお客様から、昔と違って外国人労働者を確保することが難しくなっているという話はよく伺います。

おそらく円安の影響もありますし、将来的に見れば外国人実習生の取り合いということがきつと起こるんだろうなあとという中で、安心安全を保ちながら外国人にとっても魅力のあるまちづくりのための施策も必要ではないかと思いました。

また、資料 1 を見ると、社人研推計と想定人口との間にかなり乖離があって、想定人口の仮定も無理があるところもあると思うので、見直しをかけながら目標値に近づけた方がいいと感じました。

和田部会長

外国人労働者の問題については、資料 4 ページの下のグラフに記載されている最新の数値が約 1 年前の数値なので、その後の話という部分で、皆様と情報共有ができたかなと思います。

資料 2 ページの社人研推計と八尾市想定人口との乖離について、想定人口とは別に、表には出せなくても現実的な推計というものも持ち合わせたほうがよいというご指摘でした。

高島委員

外国人の住民数について、弊社もたくさんの外国人が働いていますが、外国人が家を借りようと思うと、八尾に外国人が借りやすい住宅が少なく、東大阪市に住まざるを得ないという現状があります。

保証人がいないので借りにくいという面があると思いますが、せっかく八尾で働いてるのに八尾市に住むことができないことは残念に思います。

和田部会長

高島委員のご意見について、事務局として持ち合わせているお考えはありますか。

事務局

外国人にとって文化風習という点では、例えばごみの分別では、市によって分別方法が異なり難しいという意見も聞いたことがあります。住宅の供給という点では、空き家の活用ということも検討していく必要があると考えています。

いただきましたご意見を受けまして、担当部局等とも情報交換していきたいと考えています。

和田部会長

他に何かご意見やご質問はありますか。

坂口委員

人口の問題に関して、出生率が上がらない状況では、結局人口の取り合いになるのかなと思っています。

例えば隣接市から八尾市に引っ越してもらえたら、その市の人口は減るが八尾市の人口は増えるという話と変わらないと思いますが、実際そうしないと市としては存続できないという現実もあります。

人が集まるまちにするには、魅力ある都市、住みやすい都市にする必要があるということですが、様々な施策に取り組んでいると思いますが、もう 1 歩踏み込んで、例えばシングルマザーが西日本一住みやすい都市とか、外国人にとって大阪で一番住みやすい都市、という PR をすれば、SNS で広がって宣伝効果もあるし、実際に人が集まるのではないかと思います。すでにいろいろな施策を行っていると思いますが、それらは多分他の市町村でも行われている可能性が高いので、そうであれば日本一のまちに向けて、八尾市がどんなことをできるかということを読み込んで考えれば、面白いことができるのではないかと思います。

和田部会長

ありがとうございます。

この戦略部会にふさわしいご意見だったと思います。事務局として、何かご意見等ごきいますか。

事務局

「日本一の〇〇」と銘打つことは、大事だと思っております。

日本全体としては人口が減っていく状態の中、市の人口を増やそうと思うと社会増を狙うのは妥当であるといえます。

これが近隣市での人口の取り合いになっていいのかという議論はあるんですけども、一方

で八尾市の発展を考えると、関係人口の考え方も含めて、人口を増やしていかなければならない部分があるので、近隣市の方も含めて広くもっと知っていただくとか、外国人の方々にも、広く知ってもらおうと取り組みを継続してさらに発展させていく必要があるのではないかと考えています。

和田部会長

それでは、議事2. 今後の地方創生に資する取り組みについて に移りたいと思います。次年度に向けて八尾市が取り組もうとしている地方創生に関する取り組みについて、国のデジタル田園都市国家構想交付金の地方創生メニューを活用する事業を中心に、3つの取り組みについて皆様とご意見交換を行いたいと思います。1つずつ区切りながら議論していきたいと思います。

それでは、1つ目の取り組みについて、事務局よりご説明をお願いします。

(資料2説明)

和田部会長

ただいま、事務局より説明がありました。

こちらの取り組みは、産業分野における令和4年度から開始した取り組みの最終年度における事業展開についてということでした。

それでは、この取り組みについて、委員の皆様それぞれのお立場による独自の取り組みの提案や、市を含めた各機関の連携による取り組みの提案、より一層事業効果が高まる手法についてのご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思います。

ご意見等あれば、挙手願います。

和泉副部会長

ご説明ありがとうございました。

課題のところ、アイデアの創出には至ったが、その商品が市場に本格参入できた企業が少ないということについて、要因は分析されているのでしょうか。

事務局（産業政策課）

市内の中小企業には、自社商品に初めて挑戦する企業が多くあり、自社で企画から販売までしていく経験を十分持っていない企業があるので、そういった企業の支援をしていきたいということ、市内企業はB to Bの形態が多いので、そういった企業への支援という形で考えています。

和泉副部会長

ありがとうございます。企業の販路開拓支援をされていくということによろしいですか。

事務局（産業政策課）

OEM生産を受注している企業が多いので、自社商品を製造して販売するところのサポートをしっかりしていきたいと思っております。

古河委員

この取り組みでどういった内容のものが展開されてるのかをよく知らないなので、一例を教えてくださいなと思います。

事務局（産業政策課）

ちょうど今、近鉄八尾駅西口のところに、いろんな企業の商品の展示をさせていただいています。

展示されている商品は、八尾市の商品開発支援により生まれた商品です。こちらをご覧くださいますと、こういった商品が企業で生まれてるということが見ていただけるとと思います。

和田部会長

他いかがでしょう。

野村委員どうぞ。

野村委員

この取り組みについては、京都芸術大学の学生さんや電通グループの方にデザインを考えてもらい、商品パッケージの改良を行ったり、脳科学者の茂木先生にもアドバイスいただいたり、盛りだくさんの内容になってまして、弊社でもこの取り組みに参加させてもらっています。

実際に商品化できるように後押ししてくれるのがこのプロジェクトだと感じています。

和田部会長

金融機関の皆様にとっては、こういう企画だったらぜひ融資をしたいとか、こういう形だったらもっと連携できるといった何かアドバイスとかございませんか。

ご意見が出にくいようなので、事務局からももう少し具体的に説明していただけますか。

事務局（産業政策課）

実際にこの取り組みを通じて作られた商品というところでは、例えばクラフトテープを日本で初めて量産化に成功した菊水テープ株式会社という企業がありますが、防犯を目的として、電通とコラボして「見てるぞテープ」という人の目がプリントされたテープを作られ

ています。(株)マクアケでクラウドファンディングを実施中ですので、応援していただけるとありがたいです。

和田部会長

他いかがでしょうか。

伊藤委員どうぞ。

伊藤委員

先ほど事務局から、B t o Bの企業さんが多いというような話だったので、B t o BでなくてB t o Cの商品を販売していきたいと考えているのでしょうか。

事務局（産業政策課）

自社の付加価値を高めたいと考えている企業があるという中で、新しい分野へ展開してみたいと考える企業が多いです。

伊藤委員

こういったアイデア商品の情報発信を市としてされているのでしょうか。

事務局（産業政策課）

SNS で情報発信をしながら、イベントのご案内等も行っております。

伊藤委員

B t o Cということでしたら、若い方は TikTok やインスタグラムをたくさん見ているので、例えば先ほどの「見てるぞテープ」は、非常にネット受けしやすいものだと思いますので、そういったツールを活用して積極的に情報発信をしていけばよいかと思います。

和田部会長

ありがとうございます。

古河委員や坂口委員は、一市民として資料 2 の左下に記載されている企業名を見てイメージがわきますか。

坂口委員

山口包装工業(株)は、仕事で関わったことはありますが、正直あまり知らない企業が多いです。

古河委員

どの会社が何をされている企業か全然わからないので、情報発信していただければと思っています。

和田部会長

今の市民委員の方々のご意見は大事で、意識しなくても目に付く環境にはまだないということだと思います。

B to Cになると、より市民の方にも見えやすくなりますし、流行りのSNSを活用した情報発信というのが、八尾市の企業が活性化するひとつのきっかけになるんじゃないかと思っています。

せっかく企業が頑張っているのに市民が知らないでは、もったいない気がするので、ぜひそのあたりの工夫をお願いしたいと思います。

坂口委員

こういった取り組みを細かく動画でまとめてYouTubeにアップすれば面白いのではないかと思います。

和田部会長

ありがとうございます。事務局、何かご意見等ございますか。

事務局（産業政策課）

産業政策課のYouTubeチャンネルがありまして、そこでいろんな企業の情報発信を行っておりますので、ご覧いただけたらと思います。

和田部会長

ありがとうございます。事務局は既に取り組んでいることはぜひこの場でアピールしてください。

それでは、2つ目の取り組みについて、事務局よりご説明をお願いします。

（資料3説明）

和田部会長

はい、事務局ありがとうございました。

こちらの取り組みは、観光分野における今年度から開始した取り組みの2年目における事業展開についてということでした。

それでは、この取り組みについて、委員の皆様それぞれのお立場による独自の取り組みの提案や、市を含めた各機関の連携による取り組みの提案、より一層事業効果が高まる手法につ

いてのご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思ひます。

野村委員

八尾市観光協会から、潜在ツーリズムの観点から新しいコンテンツを考へて欲しいというご依頼があり、「愛する信長さまに近づきたい 萌えキュン金平糖作り」という体験イベントを実施しています。

なぜ信長をクローズアップしようと思ったかという、アリゾナ州から信長のゲームで金平糖のことを知って、金平糖ミュージアムの体験に来てくださった方がいらっしやいました。その経験から、信長はキラコンコンテンツになると考へて新しい体験教室を企画したんですが、この資料3に記載されていないのが少し残念ではあります。

和田部会長

ありがとうございます。

今のご意見に対して、事務局はいかがですか。

事務局（観光・文化財課）

ご指摘の点については、八尾市観光協会が万博を契機として本市へ誘客するための事業をご説明いただいたのかなと思ひます。先ほどの資料3の説明は、本市独自の取り組みを説明させていただきましたが、八尾市観光協会と並行して進めていきたいと思っております。観光協会の事業を本市も発信する、本市の事業に観光協会のご協力いただくという相互協力のもと、進めていきたいと思っております。

和泉副部会長

2点聞きたいことがあるんですが、1つは観光コンテンツ整備事業ということで、最終的にはネット上で簡単に体験事業プログラムをかうことができ、あとは当日その集合場所に行くだけっていうような、大阪ではおそらくそういった自治体はないのではないかと思ひますが、長野県の茅野市は、画面上で体験プログラムをうえるということをはじめています。東京から茅野市は特急で1時間ぐらいで、カブトムシを捕まえるよう体験プログラムの購入がネット上でやりとりできるようになっています。

外国人の方はそういったことが割と得意だと思ひますので、すぐには難しいと思ひますけども、そういうことも視野に入れられたら、今後ますます枝葉が広がっていくのかなと思ひます。

もう一点は、本事業の目的として観光地としてのブランディングとありますが、ブランディングは頻繁に観光の分野でも使われる言葉なんですが、ブランディングに取り組もうと思うと、地域と地域事業者も含めて、行政とのコミュニケーションの中でブランディングというものが構築されていくものなので、その辺りのこともしっかりと考へないといけな

と思います。

あと一点質問ですが、資料2に記載されている「令和5年度に作成した歴史資産コンテンツ」は、本日机上配布された資料に記載されているものですか。

事務局（観光・文化財課）

はい。ただいま作成中ですが、体験が仮想体験できるオンライン観光、それらを集めたデジタルのパンフレットなどそういったものになります。

和泉副部長

それをきっかけに、八尾市へ実際に来てもらいたいという狙いですか。

事務局（観光・文化財課）

まず八尾を知ってもらい、興味を持っていただくことが重要だと考えていますので、まず仮想で体験し、興味を持っていただいて、実際に体験していただくという考えのもとで取り組んでいます。

和泉副部長

なるほど。仮想で終わってしまわないようにするところが課題ですね。

みなさんに聞いてみたいのですが、仮想体験から実体験へとなると、こういったコンテンツが必要だと思われませんか。

坂口委員

仮想で体験して行きたくなるっていうのが想像しにくいなと思っています。

例えば、他市で類似の取り組みがあれば想像つきやすいかなと思いますが、そういった市があれば教えていただきたいなと思いました。

事務局（観光・文化財課）

行政が取り組んでいる類似の事例はなかなかないので、逆にどこの市町村もやっていないような発信力のあるものを作っていないといけないと思って取り組んでいるところです。

和田部長

他、いかがでしょう。

野村委員

弊社としては、リアルの工場に来てもらうのが最終的な目的なので、仮想ですべて完結するのはどうかと思います。例えば、最後に、ここからは現地でお会いしましょうみたいに、完

結させない終わり方が必要だと思います。

それから、7月ぐらいから外国、特に韓国のお客さんがすごく増えていて、福岡ミュージアムは半分以上が韓国のお客さんです。

また、八尾の観光アンバサダーの片寄涼太さんがいらっしゃいますが、片寄涼太さんの声で案内が聞けるということで、全国からお客さんが来られています。あとは、お客さん自身が広告塔になって動画を公開し、それを見て来られた方がまた動画を上げてという流れができています。

そういう流れができると、お金をかけなくてもいろんな方が次々と来てもらえると思います。

和田部会長

貴重なご意見ありがとうございます。事務局はぜひ参考にさせていただきたいと思います。

高島委員

オープンファクトリーをやっていますが、特にB to Bの企業はなかなか見る機会がないので、それを見たいという方が全国からいらっしゃいます。これが貴重な産業観光の資源になるんじゃないかと思います。工場は危険な場所ですが、カメラは入ることができますので、そこをバーチャルで見せて、実際は現場に来てもらうというのもありだと思います。

バーチャルとリアルの世界をうまく切り離すと、八尾に来ていただくようなこともできるんじゃないかなあと考えています。

和田部会長

ありがとうございます。中小企業のまちとして、産業観光については積極的に取り入れていくべきだと思います。リアルとオンラインとの掛け合わせについても、バーチャルで完結するのではなく、リアルの来訪に繋がる見せ方の工夫をぜひお願いしたいと思います。

他いかがでしょうか。

伊藤委員

河内音頭や河内木綿藍染体験とかは、外国人が非常に好みそうなので、そういったコンテンツを作るときは英語や中国語、韓国語など外国語の字幕をつける工夫が必要なのかなと思います。

一点質問なんですけど、遊覧試行をやっているということですが、例えば万博会場の上空へ遊覧飛行ができるとか、万博の会場まで移動できるとかそういったことはご検討されていますか。

事務局（観光・文化財課）

遊覧飛行のルートとしまして大阪城から万博会場の夢洲上空を通過して、U S J、それから仁徳天皇陵を通るというルート設定をさせていただいております。

万博に絡めて遊覧飛行をPRしていけば、利用者も増えるのかなと考えています。

伊藤委員

万博の近くへ着陸することはできないんですか。

それができれば自然と八尾市に来る人が増えるのではと思いました。空飛ぶクルマの運行も目指しているということで、それで移動できればいいなと思いました。

和田部会長

伊藤委員からご質問のあった外国語の字幕について、事務局いかがですか。

事務局（観光・文化財課）

字幕につきましては、英語、中国語、韓国語等5カ国語に対応する予定となっております。

和田部会長

ぜひよろしく願いいたします。

他いかがでしょうか。

古河委員

野菜の収穫体験は、子どものいる世帯には魅力的な体験だなと思います。例えば最初の土を掘るところからやってみて、何ヶ月後にそれを収穫するといった、通期を通した体験ができれば面白いのではないかと思います。いかがでしょうか。

事務局（観光・文化財課）

確かにまず苗を植えて、その後成長する過程を見ながら収穫し、ご自宅でどのような料理をするかという体験プランもあると聞いています。

今考えているのは、収穫期の収穫体験を考えていますが、ご指摘のような事例が他でありますので、より子どもの興味を惹きつけて、親子で楽しんでもらえるものについて考えていきたいと思っています。

和田部会長

ありがとうございます。それでは、お時間もありますので、次の取り組みに進みたいと思います。

（資料4 説明）

和田部会長

ただいま、事務局より説明がありました。

こちらの取り組みは、開催までいよいよ1年後に迫った大阪・関西万博に向けての八尾市の取り組みについてということでした。

これまでは、理念や考え方などの共有は図ってきましたが、市民の万博への参加・参画・体験に関する様々な取り組みについて、説明がありました。

万博の機運醸成や波及効果をいかに八尾の活性化につなげるかといった観点も重要になってくるところかと思います。

それでは、ここからは委員の皆様から、より一層、八尾市民の皆さんが万博への参加意欲や参画意欲の向上といったことや機運醸成に繋げるご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思います。

ご意見等あれば、挙手願います。

上木委員

八尾市は自治体で唯一「大阪ヘルスケアパビリオン」へ出展するというので、本当にすごいことだと思いますし、ぜひ盛り上げて行ってほしい、一緒に盛り上げていきたいというふうに思っています。

松原市が入場チケットを購入した方に1,000円の交通費補助を行うとの報道がありましたが、とてもインパクトがありました。

我々としみしても、インパクトのあることを考えていけたらと思っています。

和田部会長

ありがとうございます。事務局どうぞ。

事務局（やおプロモーション・万博推進PT）

まさにインパクトという点では、万博は世界からたくさんの方が万博会場に来る、あるいは新しい技術を披露する場というところになっています。多くの方が来場されますので、八尾をPRしていく絶好の機会と捉えており、それに向けて本市としみしても、しっかりPRをしていきたいと考えております。

来年度は万博開催に向けた機運醸成というところも含めてPRできたらと思っています。

和田部会長

他いかがでしょうか。

松本委員

さきほど農業体験の話が出ましたが、万博開催期間が春から秋の間なので、種をまいて収穫までできるのではないかと思います。

苗を植えて成長の過程をインターネットで見ることができて、収穫の時期にまた日本に来てくださいというような取り組みも面白いかなと思いました。

要は、万博会場で八尾のことを知ってもらい、また八尾を訪れてもらえることが重要だと感じました。

テレビ番組である地方を何回も訪れている芸能人が、その人をめがけて訪れてその地域を楽しむというようなことを言っていました。例えば農園との繋がり、農園の経営者との繋がりとか、それが工場であってもいいと思うんですが、そういった繋がりが後々残るような企画であれば、このチャンス生かせるのではないかと思います。

和田部会長

素晴らしいご提案ありがとうございます。

今のご提案に対して事務局から何かコメントはありますか。

事務局（やおプロモーション・万博推進PT）

貴重なご意見ありがとうございます。

人との触れ合いというところが、1つの大きなコンテンツになると考えています。

万博会場では、時間をかけて人と触れ合うということがなかなか難しいと思いますが、まずは万博会場で八尾のことを知ってもらい、八尾に来てもらい、そこで八尾の人々との触れ合いや交流に繋がっていくような取り組みができれば、より良いものになっていくと考えています。

和田部会長

ありがとうございます。

高島委員、どうぞ。

高島委員

八尾は他市よりも様々な企業が様々な形で関わっておられると思うので、それらをピックアップしていただくだけでも、八尾の魅力が市民の方に見て取れて、例えば近所の企業であれば、見に行ってもいいかなとか、もっと身近に感じてもらえるのではないかと思います。

そういった部分を集めていくのも、万博を盛り上げていく一つのきっかけになるのではないかと思います。

和田部会長

ありがとうございます。

事務局、いかがですか。

事務局（やおプロモーション・万博推進 PT）

万博への興味や関心について、大阪府市が実施したアンケート結果がありますが、前年と比べて少し下がっています。

今のお話にあったように、身近な部分で万博に繋がっていると感じてもらえたら、より興味を持ってもらい、もっと八尾の企業や人のことを知ってもらえるようになると考えています。

和田部会長

吉田委員は、大阪万博に関しての進捗ですとか、今までのご意見に対して、何かご意見等ありますか。

吉田委員

事務局に対して一点質問ですが、万博に向けた機運を高めていく取り組みをされるということですが、具体的にどのようなことを検討されているのでしょうか。

和田部会長

はい、ご質問ありがとうございます。

事務局お願いいたします。

事務局（やおプロモーション・万博推進 PT）

来年度については、例えば万博開催 100 日前の節目にカウントダウンイベントとして、万博に出展していくコンテンツを知ってもらえる取り組みを行いたいと考えています。

具体にはこれから検討を進めていきますが、市民の方々や企業に万博に向けた機運を上げていくような形に繋がればなというふうに思っております。

和田部会長

ありがとうございます。

野村委員どうぞ。

野村委員

八尾市主催の万博開催 500 日前イベントでは、ファンの方がコスプレをして弊社のゆるキャラと一緒にミャクミャクや八尾市長もいらっしゃって、いろいろイベントも活発にされてると思います。できれば、いろいろな形で関わりが持てるようにしたいと思いますし、八尾市の共創チャレンジは本当に面白い企業と面白い人がたくさん関わっている面白いチャ

レンジになっていると思うので、これからもコラボがどんどん生まれれば良いと思います。

和田部会長

八尾市の企業のわくわく感が伝わって参りました。

私から、事務局に一点ご考慮しておいてほしいことがあります。

それは万博が打ち上げ花火になってはいけないということです。

八尾市をアピールできる絶好の場がこの万博ですが、万博後のレガシーについて行政として一番考えておかなければいけないと思います。

先ほど松本委員が農業に例えて貴重なご意見をおっしゃってましたが、種をまいてそれを持続させる、それこそSDGsの考え方、本日の机上配布された資料にある八尾のローカルSDGs「80（やお）アクション」のような八尾市独自のSDGsといったものに繋げていくことが大切だと思います。

先ほど言いました打ち上げ花火でなく、そのレガシーを八尾市職員の方がお持ちにならないと、万博の成果が活かされないのではと思います。

そういう意味で資料4に「参画・参加」という記載がありますが、参加とレガシー的なものが混在した記載になっています。

1つ目は、八尾の魅力コンテンツの出展ということで「参加」にあたります。

2つ目は、多くの市民や次世代を担う子どもたちが参加し、未来のまちづくりへとつなげるという点、これは明らかにレガシーにあたります。だから前半部分の「出展にあたって多くの市民や次世代を担う子どもたちが参加」までが「参加」にあたるということになります。

3つ目は、ローカルSDGs「80（やお）アクション」ということで、レガシーにあたります。この「参画・参加」の記載が参加自体と今後に生かす部分が混在しておりますので、その辺りは事務局にご考慮いただきたいということで、コメントさせていただきました。

それでは、議事3. 第2期八尾市総合戦略の改訂について、事務局、ご説明をお願いします。

（資料5説明）

（資料6説明）

和田部会長

事務局、ご説明ありがとうございました。

総合計画の後期基本計画の策定と連動する形で、こちらの総合戦略部会では、総合戦略の改訂ということで、令和6年度から具体的に進めていくこととなります。

本日、事務局から今後のスケジュールなどご説明いただきましたので、皆様におかれましては、総合戦略の改訂に向けてこういう視点を取り入れて議論していく必要があるのではないかと、そういうご提案があれば伺いたいというのが事務局のご意向だということ

とですので、何かございましたらご発言ください。

吉田委員

万博に向けた取り組みについて、私ども大阪府商工労働部では、万博で発生する商談やマッチングを支援するサイトを立ち上げて、万博に向けて事業者の皆さんにぜひご登録をお願いしますということと呼びかけておりますので、こういった機会を通じて、ぜひ万博に参加される八尾市の企業が増えていけばいいなと考えております。

和田部会長

大阪府と八尾市の連携ということでございます。

吉田委員、ありがとうございます。

他にこの総合戦略の改訂につきまして、何かご質問ご意見ございませんでしょうか。

川野委員

私どもも八尾市の様々な取り組みに対して協力させていただいているところです。

八尾空港は非常に魅力的な地域資源となりますので、八尾市に対して八尾空港の有効活用についてご要望もさせていただいております。

万博だけでなく、将来的にも地域資源を理解していただくとすれば、八尾空港に海外からVIPが降りる場所だと思えますし、そこから八尾の工場見学に来ていただくこともできるので、そういった形で有効利用をしていただきたいというようなことを、市の施策として打ち出していきたいなと思っております。

万博に関しては、我々も機運醸成に向けて取り組んでいますが、八尾市や大阪府も各セクションでいろんな取り組みをされておられるということですが、セクショナリズムを排除し、しっかりと横連携しながら、より大きなイベントにさせていただければ多くの人に伝わるかなと思います。

我々も八尾市と連携して、秋ごろに買い物祭りという商店が1000店舗ぐらい参加して買い物を楽しんでいただく事業をしたり、ビジネスチャンス発掘フェアというものづくりに関する展示会をしたりしていますので、そういった際に万博の機運醸成をしていけばいいのではと思いました。

和田部会長

ありがとうございます。事務局におかれましては、総合戦略の改訂案を作成するにあたって、本日、委員の方々から頂いた意見を参考にさせていただけたらと思います。

以上をもちまして、議事はすべて終了いたしましたので、事務局に議事進行をお返しします。

事務局

皆様どうもありがとうございました。

皆様のご見識に基づき本日活発にご議論いただき、次年度に向けた貴重なご意見賜りましたことを感謝申し上げます。

今後、本日の内容を踏まえ今後の本市における地方創生総合戦略の推進に生かして参ります。

なお、当審議会委員の皆様の任期は先ほども申しあげました通り、令和7年3月31日までとなっております。

次年度は、毎年度お願いしている総合戦略の効果検証と合わせ、後期の総合戦略の改訂作業についても、皆様にご協力いただきながら進めていく年度となっております。

引き続き皆様のお力添えをいただきながら進めていければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは閉会にあたりまして政策企画部長がご挨拶を申し上げます。

山原政策企画部長

閉会のご挨拶の前に、先ほど万博に向けての取り組みの議事の中で、松原市がチケットを購入した市民の方に対して1000円を補助するというお話がありました。

大阪府では、子どもを無料招待するためにチケット代を負担されますが、八尾市では、4歳と5歳の子どもについては保護者一人分のチケット代の補助、また、小中学生には学校行事で行く際の交通費の補助、高校生には2回目のチケット代を補助するというところで、総額約1億5000万円の予算を計上しているところです。

松原市だけでなく、八尾市も非常に力入れて頑張っているところや、先ほどレガシーのお話がありましたが、八尾市の子どもたちが八尾のものづくりの技術に触れて、八尾でもものづくりをしようとか、八尾に住もうと思ってもらえるように、市として取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

それでは、閉会にあたりご挨拶を申し上げます。

本日、総合計画審議会の第2回総合戦略部会に、委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、また足元の悪い中、お越しいただきありがとうございました。

本日は日本の将来の推計人口、また本市の人口推移、今後の地方創生に資する取り組み、第2期八尾市総合戦略の改訂についてのご審議、ご意見、たくさんいただいたところでございます。

昨年の速報値ではございますが、我が国の出生率が8年連続で過去最低、婚姻数は90年ぶりに50万組を割ったとの報道がありました。

人口減少や少子化に歯止めがかからない状況の中、市議会からも本市の人口減少について様々なご質問とご意見をいただいたところであり、これまでから、一貫して住んでみたい、住み続けたいと思っていただけるまちをめざして、小中学校給食の無償化や子ども医療費

助成を18歳まで拡大、またこども総合支援センター「ほっぷ」の立ち上げ等、様々な政策を実施してきたところでございます。

これらの取り組みにより、社会増減については何とか踏ん張っていますが、自然増減についてはかなりの減となっています。

自然増に向けて、八尾市だけで賃金を上げるとかはなかなか難しいところでもありますので、国の強力な対策を期待しつつ、市として有効な施策を打っていくために、本日のご意見も踏まえまして、次回の総合戦略部会に向けて総合戦略の事務局改訂案をまとめていきたいと考えています。

次回の総合戦略部会の開催予定は、令和6年7月ごろの予定となっています。

委員の皆様には、次年度におきましても引き続き、八尾の市政へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますけれども閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

事務局

それでは、以上をもちまして、八尾市総合計画審議会 第2回総合戦略部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。